松原市・多職種による“認知症”学び合いの場
令和6年度報告・交流会

令和7年2月19日(水)
19:00~20:30　WEB開催

本日は勝手ながら20時30分に終了予定です

タイムスケジュール

時　間	（所要時間）	内　容
19：00～	（5分）	本日の流れの説明
19：05～ 19：15	（10分）	2024年度の取組み報告 報告者：松原市医師会　医療コーディネーター　金田氏
19：15～ 19：30	（15分）	李　利彦先生にご質問コーナー フリートーク
19：30～ 19：45	（15分）	交流（簡単なゲーム） ・形容的自己紹介　　or ・目指せ！定番王!! 司会：地域包括支援センター社会福祉協議会　佐伯氏
		参加者、主催者からのお知らせ　など

令和6年度（第55～62回）
松原市多職種による“認知症”学び合いの場

開催回数：9回(講演会・報告・交流会開催)

参加人数：合計157名(2月の報告・交流会含まず)

開催方法：来館・WEBのハイブリット

開催内容：講演会1回　4事例×２、情報交換会、座談会(2回)

令和6年度（第55～62回）の経過

回	日時	内容	事例提供者	開催方法参加者
第55回	令和6年 5月8(水) 14：00～15：30	★講演会[認知症ご存知でしょうか」 講師：李クリニック　李　利彦先生		来館者　9名 WEB　19名 スタッフ　3名
第56回	6月19日(水) 19：00～20：30	★講演会[認知症ご存知でしょうか」 講師：李クリニック　李　利彦先生　スタッフ　3名		来館者　4名 WEB　20名
第57回	7月10日(水) 14：00～15：30	【事例検討】 「ネグレクトの恐れになるケース」　スタッフ　4名	棚橋	来館者　5名 WEB　9名
第58回	9月 18日(水) 19：00～20：30	【事例検討】 「ネグレクトの恐れになるケース」　スタッフ　4名	棚橋	来館者　5名 WEB　11名
第59回	10月9日(水) 14：00～15：30	【事例検討】 「入浴・保清、食事を拒否するケース」　スタッフ　43名	川田	来館者　9名 WEB　6名
第60回	11月20日(水) 19：00～20：30	【事例検討】 「入浴・保清、食事を拒否するケース」　スタッフ　3名	川田	来館者　9名 WEB　19名
第61回	12月 11日(水) 14：00～15：30	【事例検討】 「家族が危機感を持っていないケース」　スタッフ　4名	鳥倉	来館者　5名 WEB　7名
第62回	R7年1月13日(水) 19：00～20：30	【事例検討】 「家族が危機感を持っていないケース」　スタッフ　4名	佐伯	来館者　9名 WEB　19名
	R7年2月21日(水)	報告・交流会		

第55・56回の内容

参加　58名

★**講演会**[認知症基本法ご存知でしょうか」

講師　李クリニック

院長　李　利彦先生

キーワード

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(二共生社会)の実現を推進

感想・意見

①まだまだ認知症に対する知識が足りないので、もっと認知症の方と向き合い、勉強していきたいと。
②これまでの、対応が出来ていないことに気づきました。ゆったりとした気持ちで関わっていけたらと思いました。
③ボランティアや専門職が仕事をしながら集いの場を運営するには、難しい面もあるけれど基本法ができたことで行政に意見を挙げていくことができると知りました。意見をあげてそうゆう場が出来たらと思いました。
④今現在デイサービスに勤務しています。たくさんの利用者さんに来ていただいています。認知症の軽度方、重度の方がいらしゃる中それぞれに対しての関わりが、忙しくで出来ていない状態です。もっと、ゆったりとした気持ちで関わっていけたらと思いました。
認知症基本法の事を知らなかったので、本日学べて良かったです。

第57・58回の内容

参加　38名

「ネグレクトの恐れになるケース」

ミントケア　棚橋　恵氏

感想・意見

- 実際に薬局で対応する患者さんとは異なり受診後の状況も分かっていないことから凄く、難しい事例に感じました。実際の介護の現場がこのような状況でも対応されていることを知り、凄く勉強になりました。
- 十分想像できる事例であるが、我々できることが何なのか、どう関わっていくか、どう繋げていくかを学べる場になりました。
- 家族の思い通りには、支援はいかないことが多くあります。まずは、本人様の意思尊重だと思っています。また信頼関係を築くまでには、かなり時間を要しますが、困りごとを拾っていけたらと思います。
- また、色んな認知症のケースを教えてもらい、今後の参考にさせていただきたいです。

キーワード

・今後の服薬の管理
・ご本人の意思の尊重の上、信頼関係を深めていく(本人の困り事を拾っていく)
・ご自分の体調について答えられない方のために、日常のヘルパーの観察力と聞取り
ケアマネへの報告、多職種の連携が必要不可欠である。

第59・60回の内容

参加　35名

話し合ったテーマ

【事例検討】
「入浴・保清・食事を拒否するケース」

アンケート回答

・虐待の線引きがわからないという意見が多かったが、李先生から通報の必要性、介入が必要な場合、行政も上手に入るということで気が楽になった。
・虐待の判別は難しいが、家庭事情考慮、信頼関係のなどを考え、通報をためらう場面はあると思う。しかし支援者は、通報→行政が動くことができることを念頭に置いておく必要である。
・虐待について再認識出来た→判断は市や包括である。
・虐待の通報に関しての知識について深めることが出来た。
・非常に特殊なケースの話しが聞けて非常に参考になった。今後虐待と疑われるようなケースにあった場合、是非行政が行動出来るように適切なタイミングで相談できるようにしていこうと思った。
・虐待の案件は、様々なパターンを耳にしますが、今回のような特殊なケースもあり、支援する難しさも改めて感じた。

第61・62回の内容

参加　29名

【事例】
「家族が危機感を持っていないケース」

59回

アンケート回答
・認知症の患者さんやご家族の方への病院への受診の促しやご家族の方への病気の理解を深めていくのが難しいことを知りました。
・本人だけでなく周りの家族も何に困ってるのかをしっかり聞くことが大切であると学びました。そして、気軽に相談出来る窓口があるということが家族にとってとても大切なことだとわかりました。

課題

・要支援1.2の方をサポートは、ケアマネは3か月に1回では把握するのが難しいこともある。急激な変化を把握するためには、家族や近所からの情報共有できる環境づくりが大切になると感じる。

52回

【事例】

「認知機能の急激な低下による家族の戸惑い」

52回

アンケート回答

・本日の事例のテーマが大変興味深く、支援の方向性や方法、家族の介護や関係性、多職種との連携など様々に議論でき勉強になった。
・薬剤師職だけでは分からない、気付かない状況について教えていただき、すごく勉強になった。
・患者を見守るひとつの目として、もっとできることがあるのではと再認識した。
・認知症の方のみに限らず、患者様やその家族との関わり方、距離の縮め方などを日頃から上手く身につけられるとよいなと思っていました。今回のデイスカッションの中で、各専門職との連携を深めることで1人1人の患者様、利用者様により良いサポートができると教えて頂けたことで、今後の業務に繋げていきたい。

今後の研修希望

・認知症治療薬の処方、様々な情報について教えて欲しい。
・認知症の症状が出る前の状況等についても教えて欲しい。
・薬剤師の立場で協力出来ることを知りたい。
・介護制度を交えた事例や多職種の方々との関わり方。
・色々な事例をもとに、多職種のの方々の意見を聞きたい。

第53・54回の内容

参加 21名

• 事例『不安定な統合失調症の息子と2人暮らし。
息子のサポートが不可欠だが様々な問題を抱えている』

アンケート回答

・息子様は薬受取りを行っていて好意的に世話できているが、服薬状況が分からない、片付けられない、風呂の入れてない、キーパーソンの息子さんの生活実態の把握やキーパーソンの息子との息子さんとのかかわり方で必要であり(息子さん)(本人)(内科医)(ソーシャルワーカー)など、色んな面からの本人様、息子さんとの情報収集が必要だと分かった。アウトリーチや情報収集をしてなじみの関係になったり、信頼を得て支援に繋げることが、重要だとわかった。
・認知症患者とサポートしてもらいたい家族が統合失調症ということで、対応が難しい一例と感じた。現在、在宅訪問している患者で、本人は知的障害があり、その母親の認知症が進行した際、同じように対応が難しくなると改めて感じた。
・毎回参加する中で、過去のことを照らし合わせて「あれは正解だった」とか「こういう方法があったか」と考える機会となった。

李先生より講評

退院時のカンファレンスが、行われなかったことが大きな欠落である。
本人が困っていないケース、不便と思っていない場合、援助が入りにくい。
息子さんが、キーパーソンであるので、内科のDrとのコミュニケーションを取れるに進める。
解決策として、ケースワーカーに入ってもらい、色々お手伝いに入ることで家族に心地良さを知ることで家族と距離を縮め、受診勧奨に繋いでいく。

第53・54回の内容

アンケート回答

・似た事例が薬局でも目の当たりにするようなケースだったのでより勉強になった。認知症に限らず8050問題など様々な家庭環境の課題を持つ方々との関わり方について、専門職としての知識を押しつけるのではなく、当人自身にとってメリットと感じられる過ごし方になるように専門職として動いていきたいと思った。
・事例を通し、ご本人・ご家族双方への支援の難しさを実感した。しかし、解決策には至らないものの、この事例の当事者それぞれを支援していくために誰が率先して議論の場を立ち上げ、お二人との関係性をもっていくのか、皆さんと意見を交わす中、いくつかのアプローチの方法を考えられたことは、大変勉強になった。そしてただただ説得ではなく、関係性を持つことで、お二人へのメリットを示してサービスへの関心を持ってもらう努力を継続することの大切さも学べた。
・精神疾患の方に対しての対応の仕方が開けました。
・認知症患者と精神障がいを持つ子と2人暮らしの世帯が、最近目立ち困難ケースとなることも多く、それに対しての介入は、本当に難しいです。
本日の勉強会は、本当に良かったと思います。

今年度もご参加いただきありがとうございました。

新年度も引きつづき、たくさんの方との学びを深められますようどうぞよろしくお願いします。